

編集後記

◆巻頭言にもあるように、5-6月号の天然記念物特集は、地質調査所前所長の石原舜三氏(現在、工業技術院長)が所長時代に企画し、昨年末に執筆の分担と要領を決めて、依頼後1-2カ月でほとんどの原稿が予定どおり集まるといふ異例のスピードで出来上がったものです。しかるべき企画者を立てればこんなものかと、筆者などただア然とするばかり…。

◆それにしても、個々の天然記念物について現状や最新の地質学的資料が全て整っているという訳ではないので、各分担者とも現地への問い合わせなどかなりの時間を費やしたようです。多忙ななか寄稿された皆様にお礼申し上げます。筆者の担当した関東地方は47件だったのですが、それでもこの種の問い合わせなども全部合わせると、フルに1週間はかかった計算になります。

◆関東地方を分担して感じた事は稿の末尾にも書きましたが、印象的だったのはいくつかの地方自治体にみられる熱心な取り組みと、多くの地質学者の関心の低さのコントラストでした。筆者もこれまで無関心な一人であり、この企画に関係して初めて天然記念物の事を考えたというのが実情です。当所の出

版物に地質系天然記念物の記述が乏しく、記載の基準も定められていないとあっては、発言する資格は余り無いのかも知れませんが、自戒も込めて、関係各機関の協力が求められているのではないかと指摘させていただきました。

◆ところでこの特集は、上にも述べたように、少人数で短期間に全てを網羅したために、都道府県や市町村の関係者から多大のご協力は頂いたものの、必ずしも個々の天然記念物を全て現地を訪ねた上で書かれた訳ではなく、グラビアを含め写真も主に編集上の便宜から選ばれております。将来より良い改訂版が出される事を願うと共に、読者の皆様からはお気づきの点をご指摘頂ければと思います。また、今後天然記念物として推薦するものを本誌に掲載しますので、原稿をお寄せ下さるようお願いいたします。

◆今月号から印刷所と印刷方式が変わりました。1月号の「読者の欄」で小島丈兒先生が指摘しておられた活字のサイズを1ポイント大きくし、3年間の懸案事項であった電算化を実現しました。さてどんな結果になりますか……。

副委員長 佐藤興平 記

[訂正] 3月号にあった誤植を以下のように訂正します  
(誤→正)。

目次: J. W. Hedengquist→J. W. Hedenquist

45頁第6図スケール: 25 m→25 km

この他、

36頁右4行目 このやや詳しくこのようにやや詳しく

同24行目 ら馬やら馬→馬やら馬

39頁左7行目 現在は ルム→現在はベルム

41頁右1行目 よって→よる

同10行目 Phisips→Philips

同17行目 1986年→1968年

42頁右34行目 ワルガヨッタ→ワルガヨック

43頁右45行目 ジマラ→ジュラ

44頁右4行目 コウ→ユウ

地質ニュース編集委員会

委員長: 佐藤壮郎

副委員長: 佐藤興平・磯部一洋

幹事: 宮崎光旗・奥村公男

委員: 柴田賢・滝沢文教・岡村行信・村岡洋文・

渡部芳夫・井内美郎・金沢康夫・佐藤岱生

事務局: 総務部業務課広報係 (山口秀樹・清水真寿美)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュース 第453号 1992年5月号  
定価 ¥ 770 千実費

1992年5月1日 発行

編集

発行人

発行所

工業技術院地質調査所

林久雄

株式会社実業公報社

東京都千代田区九段南4の2の12

〒102

Tel. (03)3265-0951 (代表)

振替口座 東京1-32466

麹町局私書箱第21号

印刷

小宮山印刷工業株式会社

©1992 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ